



### 生きている目標

私は年間約100名近くの終末期の患者さんを診ています。

ただ、そういった患者さんご家族も、残された時間を絶望して過ごされているわけはありません。皆さんそれぞれに目標があります。

標を持ち、それに向けて前向きに日々を送っていると思います。次の誕生日までには「頑張ろう」「新しい年を迎えるまで頑張ろう」など、その目標はさまざまです。最近のエピソードとしては、非常に社交的な方は、痛みの緩和を重視することが多いのですが、観劇が印象的でした。その方はガンの末期で、劇するには体力が必要なので、リハビリを含んだ治療が重要となります。患者さんも、苦しい瞬間があつたことでしょうか。下痢が慢性的に続いていることもあり、会場まで体力が持つか不安だったので、連日点滴を行い、無事に、3時間ほどの観劇をすることができました。

その日の夜に往診に行つたのですが、「踊りは上手だったわ」と喜ぶ姿がまぶしく見えました。生きている喜びが全身からあふれてきたように思います。終末期といえども、納得いく人生を全うすることが大切です。そういった形のサポートを、これからも続けていきたいと思つています。



**松原 清二** 医師  
在宅療養支援診療所「まつばらホームクリニック」院長  
総合内科専門医・循環器内科医  
・日本循環器学会専門医  
・日本内科学会認定医  
・認知症サポート医

下痢が慢性的に続いていることもあり、会場まで体力が持つか不安だったので、連日点滴を行い、無事に、3時間ほどの観劇をすることができました。

【まつばらホームクリニック】  
**☎ 042-439-1250**  
 西東京市東町 4-14-18-2F  
(訪問中のため不在が多い)  
 ■電話対応 : 午前 9:00 ~ 午後 6:00  
 ■定休日 : 土日 (祝日は診療)  
 ■訪問地域 : 西東京市全域、東久留米・新座・練馬の一部

まつばらホームクリニック